

あいサポート・アートセンターからのお知らせ

あいサポート・アートとっとり展 開催

本展

米子市美術館(第1~4展示室)

2023年12月9日(土)~12月17日(日)

中部巡回展

倉吉未来中心(アトリウム)

2024年1月10日(水)~1月17日(水)

東部巡回展

鳥取県立博物館(第1・2展示室)

2024年1月25日(木)~1月30日(火)

Hugs 次号のお知らせ

2024年 春 発行予定

特集:未定

コラム:あいサポート・アートセンターはこんなところ!

Hugs 2023年冬号 vol.7

2023年12月1日発行

発行/あいサポート・アートセンター

〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563

TEL:0858-33-5151

FAX:0858-33-4114

E-MAIL:tottori.asac@gmail.com

HP:https://art-infocenter.jimdofree.com/

取材・編集 / 水田美世

撮影 / Ys Photo Studio

デザイン / 森下真后

協力 / 鳥取県

吉岡さつき 《パートナーⅠ》(表面)、《パートナーⅡ》(裏面)2022©SOI STANCE

障がいと共に生きるアーティスト達とそこにある世界を発信するフリーペーパー

Hugs

はぐす

2023年冬号 vol.7

寄り添いながら、 個性を生かす

特集:「SOI STANCE」

コラム:あいサポート・アートセンターはこんなところ!

あいサポート・アートセンターはこんなところ!

▷あいサポート・アートセンターは鳥取県が平成30年に設置した障がいのある人のための文化芸術活動拠点です。

センターのお仕事紹介 その3 情報発信

障がい者の芸術・文化活動に関する必要な情報を収集し、インターネット等を活用して、広く発信するよ。



センターマスコット
まみちゃん

ブログや
SNS
メールマガジン
など!!

「Hug」という言葉には、“愛情をもって抱きしめる”“こだわりを守り続ける”“自分自身を幸運だと思う”などの意味があります。フリーペーパーHugsは、障がいと共に生きながら創作や表現活動をしている方々や施設取材し、その活動の様子や日々の思い、そこから広がる豊かな世界を伝えていくことを目的にしています。

▲「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。

▲「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。



寄り添いながら、個性を生かす

各々の人に寄り添ったりハビリテーションプログラムを中心に組み立て支援活動を展開してきた「SOI STANCE」。カフェや駄菓子屋の運営と同じようにアート活動も大切な事業のひとつと捉えています。その想いやこれからのことについて所長の鎌田亜希さんを訪ねました。

左：SOI STANCE所長・鎌田亜希さん

ー作業療法士としてSOI STANCEを立上げられた鎌田さんが、設立当初からアートにも力を入れようとした背景を教えてください。

鎌田：学生時代はリハビリテーション(以下、リハビリ)の専門学校で学んだのですが、それ以前に実は私自身が何かをつくりたい絵を描いたりするのが好きということもあって、美大に行きたいと考えていた時期があったんです。でも良くある話ですが、親には資格を持った方がいいと言われて(笑)作業療法には様々なアクティビティがあり、例えば陶芸や油絵などものをつくる工程が手やささまざまな身体機能のリハビリも兼ねるということもあって、専門学校の授業にも入っていたんです。10年以上のリハビリの現場経験を経た今のタイミングなら、アート活動を通じてリハビリを促すという場を提供できるかもしれないと思い、もともと興味があったアートにいま向き合えているという感じなんです。

ー作業をしながら体をほぐしていくとか、できなかったことができていくという作業療法の中に、創作やアートは位置づけられているんですね。

鎌田：感覚や触覚、指で触って圧迫するとか、そういう医学的なことも絡めて感覚を体に入力していくことは大事なんです。人によっては空間処理が苦手で、入ってくる刺激、例えば、つるつるとざらざらの違いや押した時の跳ね返りが分からないということもあります。筆圧が濃くなり過ぎて疲れてしまって字が書きたくなくなるということにも繋がっていく。なので、リハビリでもそうした創作活動を取り入れることは良くやるんですね。

ー活動を拝見すると、いわゆる作業というよりは、それぞれの方が主体的に考えて自分のやりたいことに真摯に取り組んでおられます。内容はそれぞれの方とコミュニケーションしながら決めていくのでしょうか。

鎌田：基本的に主要メンバーはご自身の好きなものを、花倉要さんならウサギ・亀・ペンギン・花などを、木村二三雄さんは女の子の絵を水彩の淡い色使いで描いて、それぞれに特徴があります。たくさんの方の表現の引き出しがある吉岡さつきさんのように、最初からうちがアート活動をしていることを知っ



花倉要(うさぎとかめ)2023年
動物や花を好んで描く花倉さん。昔話の「うさぎとかめ」から着想した作品で、亀だけでなくウサギにも勝ってほしいという思いから、同時にゴールする様子を描いた



主として女の子をモチーフに、テーマ性のある作品に取り組む木村二三雄さん。水彩絵の具を用いた細やかな表現や言葉遊びも取り入れた作品を好む

てそれを目指して来られる方もいます。この12月で活動を立ち上げてから5年目になりますが、平日は軽作業などに取り組み、土曜日にアート活動ができる体制にして、アート活動もそれぞれの方の仕事になるように制度を整えてきました。

ー活動で生み出された作品はどのように扱っているのですか？

鎌田：年1回の主催の展覧会に出品したり公募展に出したりしているほか、SUZURI(https://suzuri.jp/SOI_STANCE)というネットショップサービスを使って、吉岡さんのイラスト等を用いたグッズを販売しています。

ーSUZURIで販売している冷奴のタンブラーはビールが進みそうですね！

鎌田：最近はアート活動のみのInstagramも開設しました。カフェのフォロワーに比べるとまだまだなんですが、日々の活動の様子とか、作品のことと、販売しているグッズについて載せはじめました。

ーインスタに掲載されている山本美和さんによる文字も素敵です。

鎌田：山本さんが描いた「あいうえお」ですね。山本さんも主要なアーティストさんですが、最近は軽作業の方が忙しくなっていて今日の活動には参加できていませんが、魅力的な作品をたくさんつくっておられます。

ー今後に取り組んでいきたいことや目標などあれば教えてください。

鎌田：作品のレンタルもできたらと考えていて、例えばどういう料金設定がいいのかとか、どのくらいの大きさが良いのか、契約はどうするかとか、ちょこちょこそうしたことを個人的に県外の事業所さんなどに問い合わせたりしているところです。あとは、企業さんのトラックのラッピングカーを描くとか、うちの事業所だけでなく皆さんのアートがもうちょっと街の風景の中に展開してたくさんの方が目にする場に出て行くといいなと思っていますし、そういうのがまちの売りにもなるのではと考えています。



SOI STANCE(ソイスタンス)
株式会社アキヨシフードサービスが運営する就労継続支援B型施設として作業療法士と栄養士が2019年に設立。利用者やその家族へ寄り添い「SOI」の姿勢「STANCE」で支援している。「SOI」はフランス語で「個性(ソア)」の意味
〒683-0042 鳥取県米子市塩町163
TEL:0859-31-8051 FAX:0859-31-8051



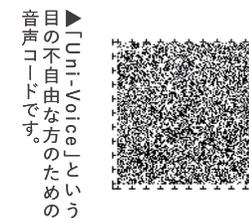
様々な表現手法を積極的に取り入れてきた吉岡さつきさん
(上)ロックやクラシックなどの音楽を聴きながらこんこんと湧きだす創作アイデアを即興的に表現した作品。同シリーズのキャラクターを縫いぐるみにした立体作品もある
(下)様々な色を黒い画面上に散らばせてそのリズムミカルな動きを楽しみながら制作



山本美和(お寿司のパラエティパック)2020年
様々な種類のお寿司が白いお皿に収まりきれないほどにたくさん描かれた作品。お寿司へのほとばしる情熱を朗らかな色彩と確かな描写力で表現している



▶「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。



▶「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。